



地域の世代間協働による 生涯現役支援の実践的研究

ライフデザイン学部 安全安心生活デザイン学科／地域看護学、がん看護学

伊藤 美由紀 ITO Miyuki

准教授、修士（看護学）



1. 研究内容

住み慣れた住宅や地域で子どもから高齢者までが安心して生活し、人生を送るためには、自律した暮らしが重要であると同時に、人々が交流し互いを知り、支えあうことが必要になる。これまで「弱者（高齢者・子ども・がん患者など）支援」が多く述べられてきているが、「弱者」と呼ばれる方にも「自分の健康や生活を管理する（セルフケア）能力・人を支える能力」は備わっていると考える。個々や集団の健康を広く捉え、非日常だけでなく日常不断の世代間交流や地域活動の必要性と効果を主課題としている。



2. 地域・産学連携の可能性

高齢者や子ども、がん患者などの健康維持や QOL の向上に関する活動を協働で実施している。地域の企業や団体とともに、健康教室やがん患者サロン、子どもやその親を対象とした健康や防災教育、高齢者を対象とした生涯現役を目指した活動などがある。超高齢社会や過疎化地域の抱える問題は、その集団だけでは解けないことが多く、第三者の介入や異世代（大学生等の若者）の参画が有効なこともある。またその個人や集団は、自らの持っている能力に気づかず、第三者がその力を引き出す支援をすることも重要であると捉えている。

上記のソフトを重視しつつ、ハードとして高齢者や子どもを対象とした商品開発も行っている。商品を使用する消費者を理解し、ニーズを把握することを実践してきた。例えば、高齢者対象といっても 65 歳から 90 歳では大きく異なる。目的や対象者を正しく評価分析しニーズに応えることが重要である。



執筆論文

地域防災減災支援プロジェクト 東北工業大学地域連携センター紀要 EOS Vol.28 No.1 p.89- p.98 2015



世代間交流、防災減災、QOL、セルフケア、生涯現役、健康機器